

全ての文献を調べる時間はないので、生態影響関連五箇公一先生の英論文をチェックした情報です。

以下の5報の論文中、5番目の論文は海外で評価に使用されたため、企業が作成した報告書にリストされていますが、4報について記載がないか、評価が不適切。赤字は私の意見。

【BASF ジャパン株式会社の検索期間 2007/01/01~2022/09/1】

1. Acute toxicity data of common agricultural insecticides to Japanese wild bees.

Seko Y, Ikegami M, Yokoi T, Ikemoto M, Goka K, Sakamoto Y.

Data Brief. 2023 Jan 16;46:108901. doi: 10.1016/j.dib.2023.108901. eCollection 2023 Feb.

検索期間よりも新しい論文なので、報告書に入っていない。

クロチアニジン、フィプロニル、ジアジノンを6種の日本の野生ミツバチへの影響を調べた研究。フィプロニルの日本ミツバチへの影響を示した重要なデータが含まれている。

2. Ecological risks of insecticide contamination in water and sediment around off-farm irrigated rice paddy fields.

Furihata S, Kasai A, Hidaka K, Ikegami M, Ohnishi H, Goka K.

Environ Pollut. 2019 Aug;251:628-638. doi: 10.1016/j.envpol.2019.05.009. Epub 2019 May 7.

報告書の評価:「幅広い農薬を対象としており個々の農薬に関する詳細なデータを含んでいない。」として適用除外  
⇒毒性の高いフィプロニル代謝物が、国内の水田周辺の水域の堆積物中に高率に検出されていることが示されており、フィプロニルの生態影響について重要なデータが含まれている。

3. Effects of short-term, sublethal fipronil and its metabolite on dragonfly feeding activity.

Jinguji H, Ohtsu K, Ueda T, Goka K.

PLoS One. 2018 Jul 11;13(7):e0200299. doi: 10.1371/journal.pone.0200299. eCollection 2018.

報告書の評価:「溶媒としてトンボには適さない蒸留水が使用されており、評価の観点から適切でない試験設計」として適用除外

⇒トンボの激減がフィプロニル、毒性の高いフィプロニル代謝物が関与していることを示した重要な研究。報告書で指摘している蒸留水の使用は、通常研究で使用されており、これによる適正なしの評価は不適切である。

4. Fipronil application on rice paddy fields reduces densities of common skimmer and scarlet skimmer.

Kasai A, Hayashi TI, Ohnishi H, Suzuki K, Hayasaka D, Goka K.

Sci Rep. 2016 Mar 16;6:23055. doi: 10.1038/srep23055.

報告書に情報なし(最初の段階で削除された可能性あり)

⇒フィプロニルの水田への散布がトンボの激減を起こした可能性を示した重要な論文。リスク評価に含むべきと思われる。

5. Cumulative ecological impacts of two successive annual treatments of imidacloprid and fipronil on aquatic communities of paddy mesocosms.

Hayasaka D, Korenaga T, Suzuki K, Saito F, Sánchez-Bayo F, Goka K.

Ecotoxicol Environ Saf. 2012 Jun;80:355-62. doi: 10.1016/j.ecoenv.2012.04.004. Epub 2012 Apr 21.

JMPR でリスク評価に使用されているため、報告書に情報が記載されている